

なかがわ

広報

2016. 2



町のイメージキャラクター
「なかちゃん」



No.125

- ご成人おめでとう 2
- 二十歳のメッセージ 4
- 新庁舎建設工事が始まりました 6
- マイナンバー個人番号カード交付申請を行っている方へ 7
- 住民生活課生活環境係からのお知らせ 9



ご成人おめでとう

(馬頭広重美術館)

広報 展示室

第125回

企画展 開館15周年・那珂川町合併10周年記念 青木コレクション名品展—歌川広重と川村清雄

青木コレクションの中でも特出した作品に歌川広重の肉筆画があります。広重の肉筆画は嘉永年間(1848

～54)から増えはじめ、広重が亡くなる安政5年(1858)までかなりの注文があったようです。契機となったのが、嘉永初年に天童藩から大量の肉筆画の注文を受けたことです。今日では一般に大名もの、天童広重と呼称されている作品群で推定200幅以上と言われています。この話が江戸の市井の噂になり、広重は錦絵ばかりでなく肉筆画においても優れた作品を描いているという評判がたったのでしょうか。天童広重は尺本(縦約90cm横約30cm)と呼ばれる床の間サイズの肉筆画ですが、広重に直接肉筆画を注文した人たちは、一般的な床の間サイズの掛軸ばかりでなく襖絵、横幅の掛軸、画帖、飾り幕など様々な作品でした。ただし、そのほとんどが風景画であったことは広重が最も得意とする分野を知っていた事になります。

今回紹介する作品も風景画ですが、一般に知られている広重の作品とは多少雰囲気が異なります。「墨堤三囲雪中真景図」(紙本一幅)は寸法は55.1cm×89.1cmの横長の構図です。構図は待乳山の近く山谷堀にあった竹屋の渡し場付近から隅田川越しに対岸の隅田堤の渡し場を見ています。辺りは深々と降る雪で覆われています。広重は降り続く雪を胡粉で表現しています。対岸の隅田堤の土手を登る階段の先に見えるのは三囲神社の鳥居の笠木です。この鳥居は度々起こる洪水のため堤自体が高くなり、嘉永年間には鳥居は見えなかったそうですが、絵画に描く場合はランドマークとして、見える様に描いています。その先には雪が積もった三囲神社の杜がありますが、この神社も本来は堤の下にあり、鳥居同様にランドマークとして描かれています。



「墨堤三囲雪中真景図」(紙本一幅)

雪の積もった本殿の屋根が僅かに見えます。墨田堤の桜樹や茶店も雪も覆われ人影はありません。川には筏や渡し舟、高瀬舟の他に雪見を楽しんでいる屋根舟が見えます。川の中央の左右の寄洲にも雪が積もり、僅かに水面が覗いている部分に渡し舟が往来しています。屋根舟は料亭街にある山谷堀の棧橋に向かっています。色彩は広重には珍しい水墨画風に描かれた作品ですが、このような技法で描いた作品は他に信州飯田から依頼のあった屏風絵が挙げられます。冬の寒々とした光景を見事に演出した作品です。

馬頭広重美術館 館長 市川 信也

- 【会 期】 2月28日(日)まで
【開館時間】 午前9時30分より午後5時まで
(但し入館は午後4時30分まで)
【休館日】 月曜日、祝日の翌日
【入館料】 大 人 500円(450円)
高・大学生 300円(270円)
※()は20名以上の団体料金。
※中学生以下は無料。
※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

平成26年度 那珂川町観光写真コンテスト受賞作品



入選「夕陽華やぐころ」

撮影者：大野 和三さん(那須烏山市)

「夕日の美しい馬頭の風景を表現しようと思いました」
(大野さん)

